

1990.12

愛鳥教育

No.35

全国愛鳥教育研究会

愛鳥教育

No.35

1990.12

目 次

巻頭言	江袋島吉	5
愛鳥活動実践講座	平田寛重	6
平成2年度全国愛鳥教育研究会野外研修会報告	杉田優児	18
平成2年度全国愛鳥教育研究会室内研修会案内	事務局	21
むらの理科ことはじめ(8)		
「宇宙人はいるか」	金井郁夫	22
編集後記		23

友あり遠方より来たる

—ヒマラヤの国の友人たち—

全国愛鳥教育研究会会長 江袋 島吉

◇ 日本・ネパール愛鳥教育交流

去る10月11日、ネパール王国から日・ネ愛鳥教育交流視察のため、ジージェイ・マーラ（キング・マヘンドラ・トラスト広報主管）、ラジェンドラ・スワール（同研究員、バード・ウォッチング・クラブ副会長）の両氏が来日しました。

スワール氏は、私が一昨年視察団の一員として同国を訪れた際に、優れた研究発表を行い、また、3日間にわたり保護地区（サファリ）のガイドをして下さっただけに、懐かしさもひとしおで、共に再会を喜び合った次第です。

両氏は多忙な日程のなかで、世田谷区立松丘小学校、上野・多摩動物園、丹沢・大山国定公園、山中湖周辺、山階鳥類研究所、我孫子市鳥の博物館、大井野鳥公園などの見学・視察を行い、また、今次訪問の主眼である愛鳥教育交流会議に参加されました。相互の発表主題は次の通りです。

○日本鳥類保護連盟の愛鳥教育国際交流について
連盟事務局長 江原 秀典

○ネパールにおける鳥獣保護—将来を概観して—
ジージェイ・マーラ

○ネパールの鳥類保護教育について
ラジェンドラ・スワール

○日本の小学校における愛鳥教育について
本会会長 江袋 島吉

○日本における教科書と鳥類保護（小学校）
本会常務理事 長屋 昌治

スワール氏は、慢性的な貧困に悩む国にも、ようやく自然保護の気運が芽生えた途端に、政治的混乱（対インド貿易と民主化運動）が起こったため、厳しい環境のなかで懸命に頑張っている旨の発表を行いました。私どもが一昨年助言したと思われる点がうかがえて、心うれしく思いました。

今後ますますの検討を祈り、再々会を約して別れましたが、ヒマラヤの山野を駆け巡っている独特な人懐かしい笑顔を忘れることができません。

◇ 愛鳥研情報

1. 冬期野外研修会 — 12月2日（日） —

晴天ながら強風のもと、江戸川区の葛西臨海公園で、定例の野外研修会を実施いたしました。

まず、東洋一を誇る真新しい東京都葛西臨海水族園を見学。数多くの魚類に加えて、新来ウミガラスやニシツノメドリ、エトピリカなどの海鳥に接することができたことは望外の喜びでした。

午後は、人工なぎさに出て、干潟のカモメ類のウォッチングを行いました。当日は、計17種類の野鳥が観察できました。

帰路は、水上バスで東京湾の探鳥をしながら日ノ出棧橋に到着。充実感いっぱいの日でした。

2. 第25回野生生物保護実績発表大会

12月6日、環境庁で、全国から選ばれた10組（小学校7、高校1、養護学校1、一般1）による実績発表中央大会が開催されました。

本大会の特色は、最近の世界の動向から、従前の“鳥獣”が“野生生物”と改称され、魚類や昆虫などの部門も参加している点です。

3. 室内研修会 — 1月27日（日） —

別項のように、室内研修会を開催いたします。今回は、東京都世田谷区のご好意により、同区のエデュセンターを会場として実施することとなりました。日頃、指導・運営に携わっていらっしゃる教育現場の先生方と行政担当の方々の発表を中心に内容としていますので、皆様お誘い合わせの上、多数参加されんことを望んでやみません。

4. 愛鳥教育マニュアルの執筆進行中

（財）日本鳥類保護連盟では、愛鳥モデル校をはじめ関係者からの要望が強かったマニュアル（仮題“野鳥から始める自然教育—学校でできる愛鳥教育入門—”）を刊行することとなり、執筆の委嘱を受けた本会会員各位が鋭意努力中です。来春発刊の予定ですが、本格的なものを目指していますので、ご期待下さい。

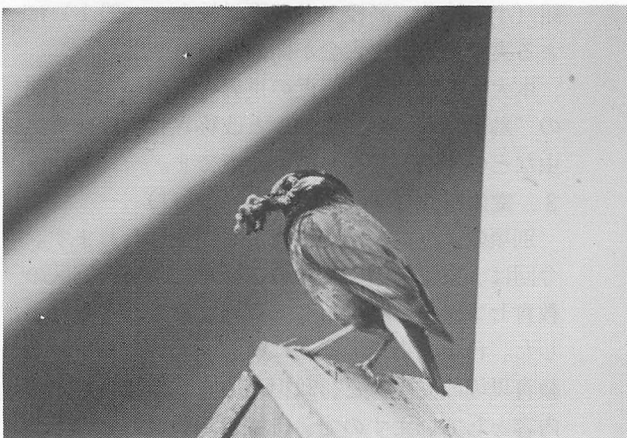
野鳥との出会いをつくる巣箱活動

全国愛鳥教育研究会常務理事 平田 寛重

1. 巣箱について

巣箱は、開発や伐採のために樹洞のあるような木がなくなり、エサになる虫はたくさんいるのに巣を作るための樹洞のある木が減って、繁殖場所に困っている野鳥たちのために用意するものです。

森林害虫の天敵である野鳥が森に生息することは、バランスのとれた生態系が維持される上で大いに意味のあることです。一般に鳥類は害虫の局的発生を制御し、害虫が大発生へ向かうのを遅らせる働きをもつと考えられています（「アニマ」no.144,1985,2）。バランスが崩れると、大規模な地域に松枯れを起こしたり、樹木の成長を阻害することがあります。巣箱活動は害虫駆除のためにドイツで始まったと言われる所以もそんなところにあります。繁殖期のシジュウカラは一日に小さなイモムシを230匹余り（由井正敏「森に棲む野鳥の生態学」1988）食べるそうです。



餌をくわえるムクドリの親鳥

また、北海道に棲むシマフクロウ（「アニマ」no.206,1989,11）や南西諸島に棲むアカヒゲ（「野鳥」no.517,1989,9）などについては、巣箱を提供することによって、絶滅の危険性を少しでも和らげようと努力が続けられています。環境庁や日本野鳥の会で行われているこれらの事業は非常に大事なことです。しかし、巣箱を含む繁殖環境の整備、つまり、大規模な生息環境の保全がな

されないままでは、鳥たちの将来は暗いのです。北欧のフィンランドのような森林の大部分を樹洞のない針葉樹が占めているようなところでは、フクロウ類の巣箱の利用は9割を越えているところもあるそうです。（「アニマ」前出）

このように、巣箱は、野鳥たちの繁殖の援助の一つとして行われる野鳥保護活動です。しかし、鳥類の生息状況も調べず、ただむやみに巣箱を架けるのは差し控える必要があります。巣箱を架けたためにある種の鳥だけが急激に増え、生態系を乱したり農作物に被害を出したりする恐れがあるからです。巣箱の架設には慎重な対応がなされるべきです。また、巣箱を架けたあとも、放っておくのではなく、その後の利用状況を把握することや、冬場には巣箱のメンテナンスなどをしっかり行う必要があります。巣箱を架ける場合、これは最低限の責任と言える内容です。架けたままで朽ちたり壊れたりしている巣箱をよく見かけることがあります。そのようなことにならないように注意しましょう。

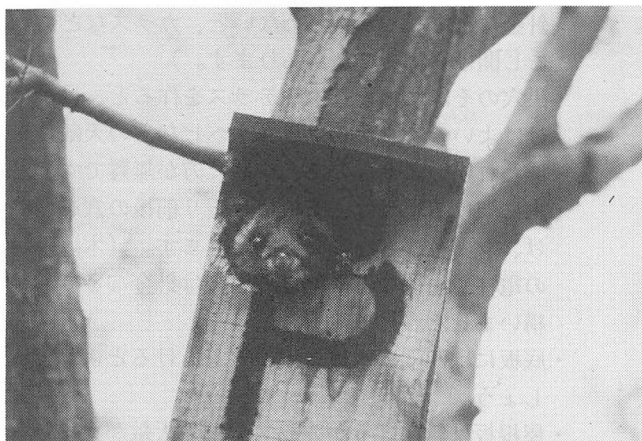
また、巣箱には、繁殖援助の機能の他に越冬期のねぐらとしての役割があります。特に体の小さな鳥にとっては、冬季のねぐらの確保は死活問題になります。（中村登流「ツルはなぜ1本足で眠るか」草思社,1984,p.116-118）

その他、鳥類の生態的な調査に巣箱を利用することがありますが、このようなことは鳥類の生存に直接関わりがあることですから、専門的知識を持った指導者のもとで行わないと、鳥類にとっては非常に危険な事態を招くことになる可能性があります。

日本国内で繁殖する種類は200種余り（1978,日本野鳥の会の調査）のうち、巣箱を利用する鳥は、シマフクロウ、フクロウ、アオバズク、コノハズク、オシドリ、ブッポウソウ、カワガラス、ムクドリ、コムクドリ、アリスイ、キビタキ、シジュウカラ、ヒガラ、ヤマガラ、ハシブトガラ、ゴジュウカラ、キセキレイ、ハクセキレイ、スズメ、ニュウナイスズメ、アカヒゲ（以上「アニマ」

no.206,1989,11)、アカゲラ(「アニマ」no.218,1990,11)、ヤマゲラ(「野鳥」no.517,1989,9)の23種で、全体の一割強というところです。その中で、市街地でもよく繁殖するのは、シジュウカラ、ムクドリ、スズメの3種です。

また、巣箱は、鳥だけでなく、ムササビ、モモンガ、ヤマネ、ヒメネズミなどの小型哺乳類やスズメバチなどの昆虫も利用します。鳥の邪魔になるからといって、その巣箱を処分してしまったりせず、そのまましておくのがよいでしょう。自然度の高いところでの巣箱のメンテナンスについては、鳥だけではなく鳥以外の生物の生活にも目を向けるようにする必要があります。



巣箱を利用するムササビ

それでは、これから、学校での巣箱を使った具体的な活動について考えていきたいと思います。

教育としての巣箱活動は、野鳥の生活を間近で観察することに意義があると考えられます。ツバメは、巣がまる見えなので観察しやすい野鳥です。それと同じように、身近な観察しやすい所に巣箱を架け、それを利用して繁殖をする野鳥のくらしを観察することは、自然を学習する活動の一つとしてかなりよい方法だと思います。しかし、それだけで終わってしまうのでは、教育活動としては不十分です。巣箱を見ながら野鳥のくらしが少しわかるようになったら、フィールドに連れ出し、巣箱を利用しない他の野鳥たちのくらしや生息環境に目を向けさせていきましょう。そして、野鳥を護ることの意味を実感させながら、巣箱を架けないと野鳥が保護できないような状況そのものに疑問を感じ、もう一歩進んだ視点に立って鳥や自然を見ることができるよう人間になるように導いていく必要があると考えます。

2. 巣箱は野鳥を間近で見るための装置

教育活動として巣箱を効果的に利用するには、子どもたちの身近な所に、例えば、校庭や教室のベランダ、自宅の庭やベランダなどに巣箱を架け、間近に野鳥とふれあえる状況をつくり出すのがよいでしょう。そして、鳥たちのくらしを見ながら、自然の営みやしくみを感じ取ったり知ったりさせるのです。このことで、子どもたちは、直接、自分で手に取ったりさわったりすることのできない「自然」や「自然のおきて」について学ぶことができます。

親鳥がヒナのためにくわえてくるイモムシやバッタやトンボ、また、木や壁によじ登って、生きるためにヒナを食べにやってくるアオダイショウ、巣箱から落ちたヒナを食べる猫、巣箱を壊してヒナを襲うハシブトガラス、足を巣材のビニールひもに絡ませて巣立ちに失敗してひからびてしまった巣立ちヒナなど、鳥たちが一人前になっていく中で起こる生死にかかわる様々なこと、それが、「自然なんだ」とわかることがとても素晴らしいことだと思います。これらのことを、一見、何もしないで見ていることは薄情なようにも思われますが、人間が安易に関わるべきではありません。食う食われるの関係にある自然界の生き物にとって、人間の干渉は迷惑なことなのです。ヘビは生きるために鳥を襲います。そのヘビもサシバの餌になってしまいます。鳥は生きるためにトンボやクワガタムシも食べます。ある一つの生き物だけがかわいそうだと思って、人間が邪魔をしたり、他の生き物を殺したり助けてあげたり、また、人間にとって都合のよい生き物だけを残してもいいということはありません。「自然のおきて」の中で、生き物たちが多様にくらしていけることが大切なのです。生き物たちが、見えない様々な鎖でつながった自然を全体的に見ないと、自然を正しく認識したことになりません。

なお、スズメなどは8月頃まで繁殖をしています。また、巣箱を見続けていくと一年の多く時期を巣箱に依存していることもわかってきたりして、生態的にも面白い現象が見つけれられるかも知れません。

3. 巣箱の作り方

以下のようなことに留意し、工夫を重ねて取り組んでみましょう。

①材料

木、プラスチック板、アクリル板、段ボール箱、牛乳パックなど、身近なものを工夫していろいろな巣箱を作ってみましょう。身近な所に架ける巣箱なら段ボール製で十分ですが、森や林に架ける場合には、メンテナンスまでの間、壊れたりしないもの、また、景観に合う材質を考える必要があります。やはり、T・P・Oをわきまえることが大切です。

庭先や校庭ならば、牛乳パックや段ボール箱、ビールの生樽の容器などの廃物利用で十分です。

その他の材料としては、木材ならば、釘、木ねじ、蝶番、シュロ縄。紙材ならば、ガムテープ、接着剤、針金、ペンキなどが必要です。その他、カッターナイフ、鋸、金槌、きり、ペンチなどの道具も用意しましょう。

また、材料調達のための資金は、巣箱を作る目的や数にもよりますが、学校予算の中に予め組み入れたり、寄付を仰いだり、子どもに負担させたりと、いろいろ考えられます。

②作り方



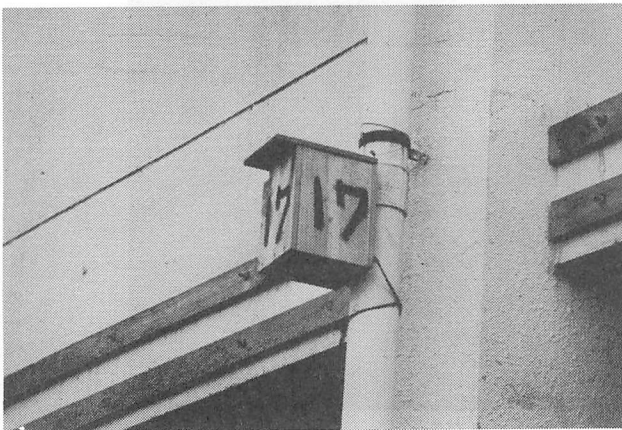
巣箱作りをする子どもたち

- まず、どの鳥の巣箱を作るかを決め、その大きさに合わせて材料を調達します。
- 見取り図は、「巣箱の作り方」愛鳥教育no.20, 1986-11巻末の付録を参考にしてください。(15ページに再掲載します。)
- 穴の大きさに留意しましょう。シジュウカラは28ミリ以内、スズメはそれ以上、ムクドリは4センチ以上あれば十分です。
- それから、巣穴から底までの深さが浅すぎるとあまり利用されないようです。最低15センチ前後は必要です。
- 屋根板か横板が開閉できると、掃除にも都合がよく、2・3年は使えます。(蓋になる部分は針金などでしっかりしめないと、カラスなどにこじ開けられることがあります。)
- 巣穴のそばに止まり木やテラスを作ると、見かけはよいのですが、カラスやヘビなどの天敵に襲われやすいようなので、やめた方が無難です。
- 木に架ける場合は、背板に5ミリ前後の穴をあけ、シュロひもを通して固定します。(木以外の電柱や雨樋などに架ける場合は針金などでも構いません。)
- 底板には四隅に水抜き用の穴をあけるとよいでしょう。
- 屋根板は急なほうがカラスなどの天敵が止まりにくいようです。
- 入り口の穴の形は、丸型にこだわる必要はありません。

4. 巣箱の架け方

以下のようなことに留意し、より多くの鳥たちが利用するように工夫して架けてみましょう。

- ・校庭や庭に架ける場合は、観察しやすく、なおかつ鳥たちにとって危険が少ない所（天敵の恐怖から逃れ、安心して子育てができる所）を探して架けるようにします。
- ・具体的には、ベランダの雨樋や手すり、教室や廊下の窓から見やすい樹木や柱などです。
- ・架ける高さは、猫やヘビ（アオダイショウ）や人が触れないような高さで、3メートル以上あれば十分です。
- ・樹木に架ける場合は、枝が混んでいない所を選び、上下の枝から離し、幹に直接しぼりつけます。電柱や柱でも同じことですが、カラスなどの天敵が足をかけられるような取っ手などがある所は避けましょう。
- ・穴は、垂直よりやや下向きにつけたほうが雨水が入りにくくなります。
- ・また、穴の前面は、広く空間が開いていたほうが、何かに襲われた時、鳥が逃げ易く、都合がよいです。
- ・後の調査のために、番号や設置年月日などを墨などの消えにくいもので書いておくと便利です。
- ・鳥の種類や環境によって、テリトリーの広さが異なりますから、巣箱間の距離を考えて設置しましょう。（スズメやムクドリは近くでもあまり気にしませんが、シジュウカラなどは餌の取れる林の中でも50メートルぐらいいは離しましょう。）



校舎の雨といに架けた巣箱

- ・架ける時期は11・12月頃がよいでしょう。その時期に架けると、冬の寒い時期にねぐらとして利用される可能性が高く、そのまま春までついて繁殖に使う率も高くなるからです。
- ・継続的に巣箱活動をする場合には、やはり、11・12月頃に巣箱の架け替えを行います。今まで架けてあった巣箱を取り外し、利用状況や巣材の様子などを調べ、掃除や修理をして、再び架けておきます。なお、この時、壊れた巣箱は新しい巣箱と取り替えておきましょう。



巣箱を架ける子どもたち

5. 巣箱活動を学校の教育活動の中にどう取り入れるか。

①クラブ活動で取り組む

クラブが主体の時期であれば、学校予算などで材料を調達してもらい、いくつかの巣箱を作り、校庭に架けて、「巣箱だより」を作ったりしながら、鳥のことを全校に知らせていくのもよいかと思えます。

もう少し専門的にやるならば、近くのフィールドに土地所有者の許可を取った上で、巣箱を架けて、子育ての邪魔にならないように配慮しながら、餌や鳴き声など生態的なことについていろいろ研究してみるというのも一案です。（巣箱そのものの調査をする時には、中をのぞいたり、ヒナや卵にさわったりすることのないように指導をしてください。）

身近にバンダー（鳥類標識調査者）の人がいれば、巣箱を利用する鳥に標識リングとともにカラーリングをつけてもらい、個体識別をしながら、その鳥の生活を追うこともできます。（唐沢孝一「がんばれ赤スズメ」大日本図書1989）

②委員会で取り組む

委員会活動の中で巣箱活動をする場合は、野鳥クラブなどと協力して、「巣箱だより」などの企画を立て、学校全体に巣箱を通して、鳥と友だちになることを呼び掛けていきましょう。

また、各巣箱に担当する係を配置し、巣箱掲示板を作ったり、校内のそれぞれの巣箱のある場所の地図と巣箱の利用状況などを掲示したりすると、全校児童にもよい刺激になるでしょう。

その他に、テレビを使って、子どもたちが知らない巣箱の鳥たちの見方なども知らせると、活動もいっそう盛り上がるでしょう。親鳥はどこを通過して餌を運んでくるのだろうか。いつもおなじルートなのだろうか。卵はオスも温めるのだろうか。その他、まだまだあるでしょう。

巣箱の架け替えの様子や巣箱の中の様子なども、愛鳥ニュースとして新聞やテレビで全校に知らせると、全校児童の関心も増してきます。

③クラスで取り組む

愛鳥モデル校でもなく、ちょっと鳥を使って、自然に親しむことでもやってみようかなと考えている貴方のためにこのプランを用意しました。是非、取り組んでみてください。

まず、図工やゆとりの時間を適切に使い、ありあわせの材料で巣箱を作ってみましょう。完成したら、家の庭やベランダに巣箱を架けて、鳥の来

るのを待ちましょう。教室では、時あるごとに子どもたちに呼び掛け、巣箱の様子を聞いたり、情報を交換しあったりして、巣箱新聞を作りましょう。（「子どもの観察記録」私たちの自然NO.274, 1984-9）

また、教室のベランダに巣箱やボロ机などを置いておくと、鳥が巣に利用したりします。給餌の様子をビデオカメラに写したり、テレビでモニターしたりしながら、野鳥のくらしをみんなで観察し、野鳥についての関心を深めることができます。

④学年で取り組む

ある学校の例を紹介しましょう。その学校は全校で愛鳥教育を進めた経過もあり、職員には、愛鳥活動に対しての理解がありました。

そこでは、毎年5年生の夏休みの自由課題の一つに「巣箱作り」があり、希望者には、学校で用意した杉板と(株)サントリーの巣箱つくりのパンフレットが配られます。

そして、休み明けには、しばらくの間、出来上がった巣箱の展示をして全校に啓蒙します。その後、11月の末に5年生の4クラスを8班に分け、校庭にある合計32個の巣箱の架け替えを行います。この時は、時間がないので、巣箱は架ける数の分だけ用意しておき、外した巣箱でまだ使えるものは来年のために掃除をして保管しておきます。

なお、実際の巣箱架けにはゆとりの時間をあて、



はずした巣箱の中を観察する子どもたち

5年の担任と級外・各学年から出ている愛鳥部の職員が指導に当たります。子どもたちは、担当者が予めつくっておいた巣箱の架け替えの地図と一覧表を見て、自分たちのグループがどこの場所の巣箱をはずし、どこに新しい巣箱を架けるのかを調べ、ハンゴを使ったり、木によじ登ったりしながら、グループで協力して作業をしていきます。

この時、巣箱の架かっていた様子や巣箱の中の様子、巣材の様子などの観察をします。そして、その結果を観察カードに記録して先生に渡し、はずした巣箱を洗ったり、処分したりして終わります。この時のことを、後で「巣箱新聞」にまとめてめるクラスもあります。その後、継続観察をし



巣箱の巣材を見る子どもたち

6. 巣箱を使った愛鳥活動例

*「私の巣箱」「私の鳥」という意識

先の④の展開例として、全校の子どもたちに、校庭に架けてある30前後の巣箱のどれか一つの番号（出席番号とおなじでもよい）を選ばせ、「私の巣箱」というふうにして継続観察をさせます。そして、特ダネになるようなことがあったら、巣箱観察カードに書かせ、巣箱ポストに入れさせます。児童会の愛鳥委員会では、集まった情報をもとに、壁新聞やテレビなどで「巣箱だより」を

て、自分たちが架けた巣箱にどんな鳥が入るかを楽しみに待ちます。時間があれば、観察記録をとったり、テレビや集会で巣箱の様子を紹介したりします。

⑤全校で取り組む

規模の小さな学校では、縦割り集団などのグループ活動にするのもよいでしょう。巣箱を共同で作ったり、コンテストを開いたり、グループで巣箱を架けたり、継続観察をしたりします。そして、その結果をまとめて、巣箱観察発表会などを開き、成果を競い合ったりして、愛鳥意欲を高めることができます。

全校にお知らせします。そうすると、「スズメが？月？日結婚したよ。」「巣箱からヒナの声が聞こえたよ。」「親スズメがアオムシをはこんだよ。」「ヘビが巣箱に入って、卵を食べちゃったよ。」「巣箱にヘビのぬけがらがついてたよ。」など、いろいろな情報が寄せられてきます。このようなことから、全校の子どもたちに鳥について関心を持ってもらうことができます。

自分で観察したことが、大勢の前やテレビで紹介されたりすることは、教育のことを考える時、とても素晴らしいことと言えます。このように教科以外でも、自然を学習する方法がいろいろと考えられます。さあ、あなたもはじめてみましょう。

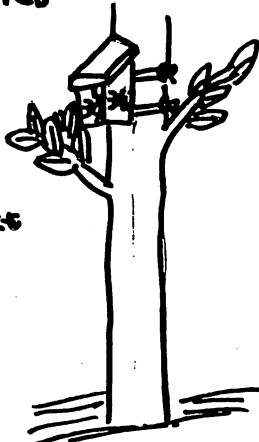
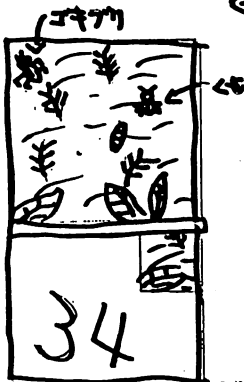
BADO 新聞

発刊
1-20

1月19日

体育館のうらの木にのぼって、
巣箱をとって中を見てみたらかや
鳥のはねや虫がはいっていて、から下
作られていた。

中の中



秋山真理

1月19日

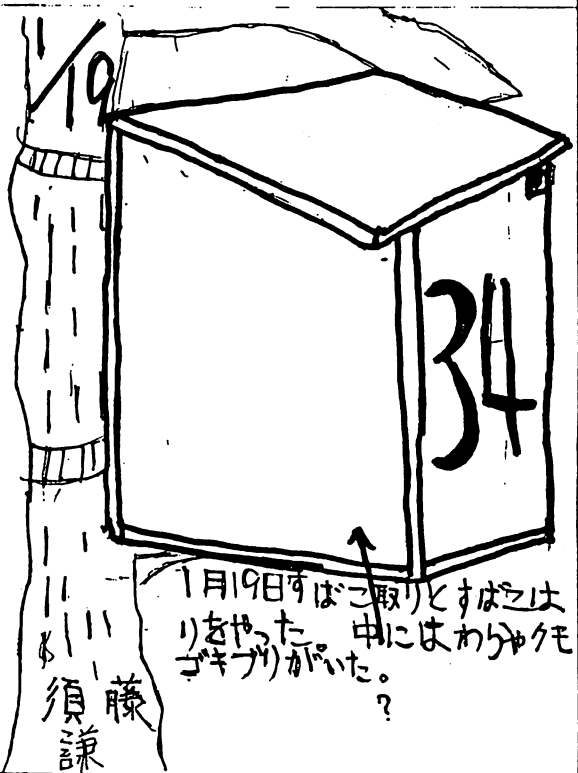
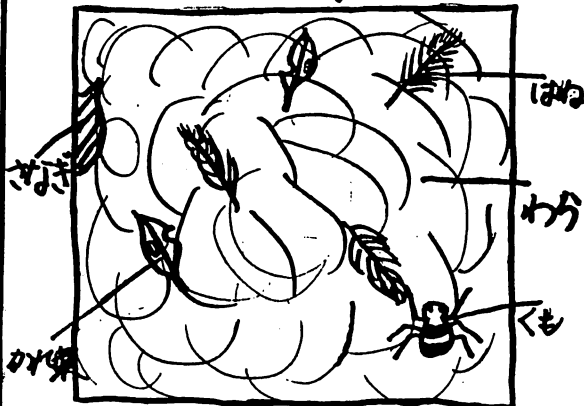


杉本淳
さくらの木の上

の方にすばつがあま
かたっぽはすが入って
いたけどかたっぽは
入っていなかつた
中にはクモやゴキブリ
などがいっぱいいた

1/19 体育館のうらの木に登ってす
ばを外して中を見た。わらや
かれ葉、鳥のはね、さなきも
ゴキブリがいました。すばの中
全部かわらだつたのですずめの
すでした。

上から見た様子
幸子



1月19日すばを取りとすばをは
りやした。中にはわらやクモ
ゴキブリがいた。
?

須藤



バードハウス新聞

1987年
1月20日(火)
発行

1月19日 月曜日

五年生のすばこかけ

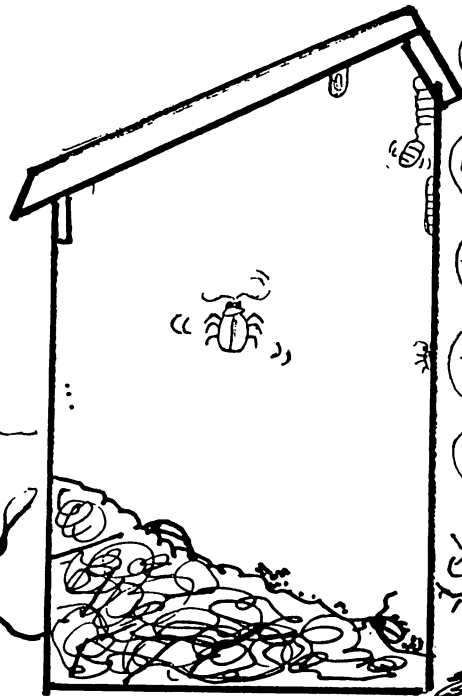
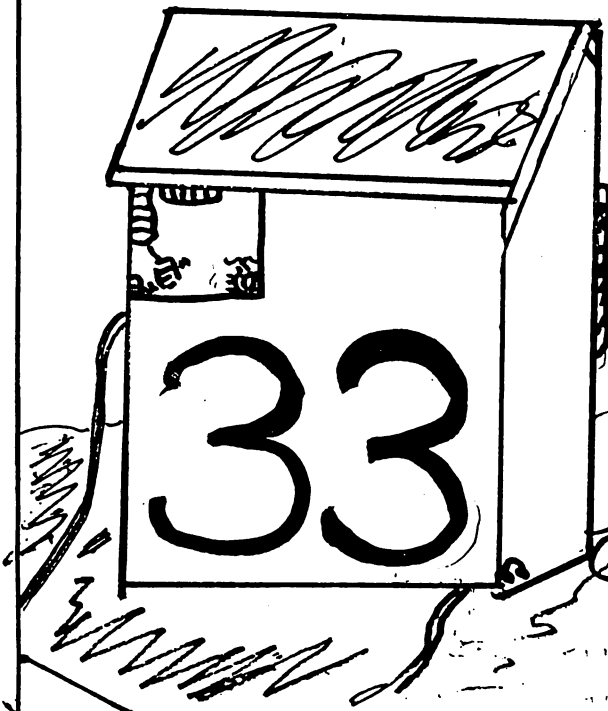
五年生全員ですばこの中や鳥について勉強した。すばこをとりはさして中や周りの様子などをしらべた。古いすばこの中には、かきは、木の枝、ほね、から、さなぎ、くも、ゴキブリなどかかっていた。すばこの形は左から右下へななめになっていて、そこで生活していたのでしょう。古いすばこは新しいすばことりかえて、また、ほかの木にとりつけた。来年の五年生がすばこをとりはさむときには

中に、かきは何かのすばこに入っているといいな。木にのぼるのは、ようちえん後のぼっていないのでとてもこわかった。のぼったのはいいけれども、くじきやくにほしごを使わないで、のぼったから下りのときなかなか下りられなかった。先生にたづねたところ、たのでや、と下りされた。もうすばこかけやとりはさむのはやりたくない。でも、とりはさむかかっていたのだけどもよかったです。思っている。こわかったけれどもとてもたのしい。すばこかけ、とりはさしでした。

外から見たすばこ

すばこの中

名前



- 長谷川 淳一
- 勝呂 圭吾
- 上野 典子
- 増山 文代
- 染谷 比呂

巣箱だより

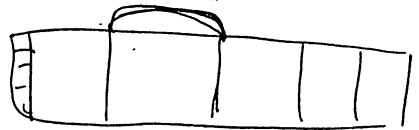
6月18日

25 体育館うらのさくらの木、体育館の穴があいていて、入りにくく、出にくく、そんな場所であり、車の音がうるさい、場所にミスありそう。



6年5組 奈良部 貴宣

26 きょうこうしのうのいちこの木にとりのけはりがあつた。くるまがうるのうるさくと思つた。瘻(うづ) (うづ)



5年4組

清水 康成



かあせみ

〈なにもない巣箱〉

27の巣箱は、体育館のうらのモミツの木に取り付けられていた。

しかし、道路でいにかかっているの、さわかしくて入る、これないようだ。



6年2組 鍛代 良二

〔わらをくわえていたどり〕

28の巣箱は、体育館のうらの木にかかっていた。ちかくのでんせんに鳥がわらをくわえてすばいに入ろうとしていたけど、ぼした、かいたから入る、すばい、おぼれると思つたから、だ、ぼしは思う

6年2組 藤原 誠



巣箱だより②

巣箱だより

6月18日

29
27番の箱の中から鳥の
声
がする。
その声はスズメのようだ。
下から見るとわらが見える。

30
30ばんのすばこにはも小林
ういながたでも
ちると、下にふんがた



6年1組
足立和也

ポストの
中の巣

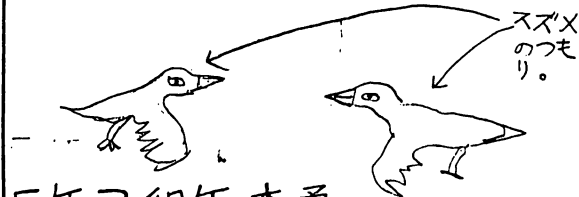
よくポストの
入れものによくスズメ
が巣をつくっている。
ふんもおちている。



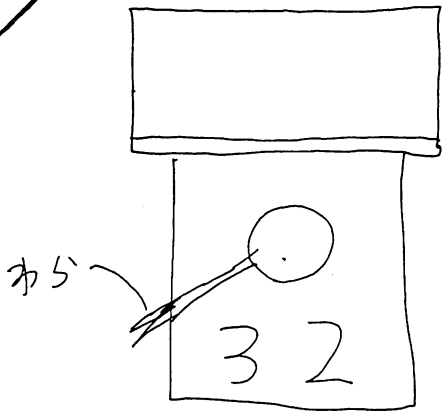
32 からっぽ
ニから
出た
のわらがでてい
る
けどなにもい
ない
みたし。

箱はケツカ

国のす箱からスズ
メがケツカをしてい
て地面に落ちてぼくか、
かけ足で、近づいてスズ
メが、ケツカをやめて空に
おか、て飛びさっていき
ました。



5年3組矢本勇



すばこだより

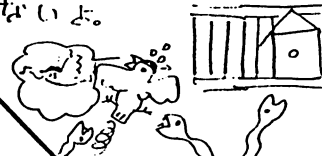
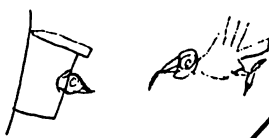
85.6.20

5-5 半谷照紅

(あ、わらきくわえアいる) 務番のすばこは、すばがわが、わらきくわえアいる。きつと、すばを一つくって、るれだろ。前に見えたわらはもうなかなた。だがすばこは今、かなが顔ををだして、すばを、作っているのではなうだ。

[34] はスズメが利用しているみたいです。ひとかくるたい、にげていなくなるともど、てきて、ゴソゴソやりだしました。そ水がおゆ、巨みたいで、やぬにの、か、ヒリ、木にとま、ヒリ、たのしそうにあそんでいた。てきがそんなにいないからあんなにあそんでいられるんだな。てきがい、はいいたあんなにあそんでいられないよ。

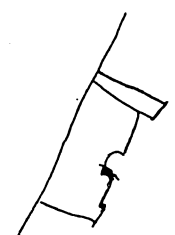
5/5
増田光輝彦



務番のすばこには、はらが出たけれど、鳥はいた。たいでした。きょうで見たけどはらが出てただけだ。

昨年、11月にいまの6年生が5年の時に、35個の巣箱をかけた。1月頃から、スズメが出入りしたりしてようすをみていました。3月頃から巣作りがはじまりました。2、3個の巣箱をのぞいて、ほとんどの巣箱に巣材が運ばれました。中には途中で屋根がこわれたり、巣箱全部がこわれたりした巣箱もありました。でも予想外に巣箱が使われてこてもうれしかった。巣箱にあぶれた鳥たちは、フンや体育小屋の屋根裏などに巣をついています。のぎょうのマンションの屋根裏にもたくさん巣ができています。3年4組のベランダにいた巣箱にもちゃんとスズメが入っていました。4年3組ではベランダにいたつての中に巣を作っていました。また、人間が作ったものだけでなく自然にある木の中にもギンバトやムクドリたちが巣をついていました。伊勢原の街路樹のハナズキの木にはカワラヒフが巣をついていました。みなさんご注意ください。道を歩いてみると、いろいろな所で鳥たちが巣をついているのぞみつけられると思います。

4-3
能条憲明

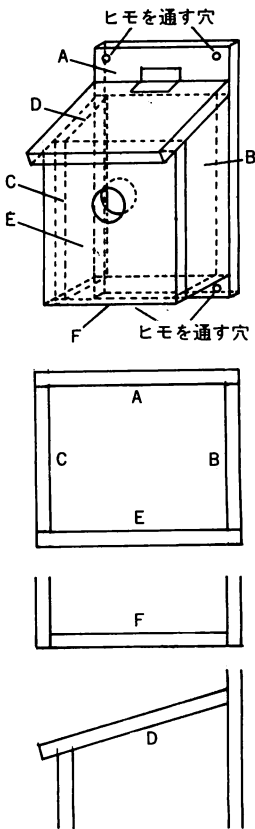


半田寛重

巣箱の作り方

- (注) a. 底には雨水がたまらないように穴をあけること。
 b. I型の巣箱の内側は巣立ちを容易にするため削らない。
 c. I型の巣箱の屋根に蝶番をつけると、箱の中の掃除がしやすい。
 d. 底板の切りおとす部分は、板の厚さの2枚分の幅で切る。

I型巣箱



I型対象鳥類	寸法 (cm)
●オンドリ ●アオバズク 孔の径/12cm ●フクロウ 孔の径/18cm	
●ブッポウソウ 孔の径/12cm	
●アリスイ 孔の径/3cm	
●シジュウカラ 孔の径/2.8cm ●スズメ 孔の径/3cm	
●ゴジュウカラ 孔の径/3cm	
●ムクドリ 孔の径/5cm	

巣箱設計図 (「巣箱の作り方」、愛鳥教育no.20.1986-11巻末の付録)

平成2年度全国愛鳥教育研究会野外研修会報告

全国愛鳥教育研究会常務理事 杉田 優児

今年度は、平成2年12月2日(日)午前10:00～午後2:00、東京都葛西臨海公園にて実施しました。参加者は6名と少なかったのですが、内容は充実したものとなりました。

【日程】

・午前10:00、J R京葉線「葛西臨海公園駅」駅前広場に集合。J R京葉線は高架となっており、また、「葛西臨海公園駅」駅は橋上駅なので、遠くがよく見通せます。目の前には、「東京都葛西臨海公園」の広々とした敷地が広がり、さらに向こうには、東京湾が見渡せます。当日は、風が少し強かった以外は天候にも恵まれ、野外研修に適したよい日和となりました。日曜日ということもあって、大層な人出です。「葛西臨海公園」の中には、水族館である「東京都葛西臨海水族園」があり、ここを訪れる人がたくさんいました。私たちもその一部です。また、「葛西臨海公園」の先には、人工なぎさの「葛西海浜公園」もあり、これらの公園でのんびり憩う人の姿もたくさん見られました。

・午前10:20、「東京都葛西臨海水族園」見学。大変な人出で混み合っていたので、各人が自由に見学することにしました。

水族館ですから、主に魚類が飼育・展示されているわけですが、ここでは魚類以外の仲間も集められており、その展示にもいろいろと工夫がされています。鳥類としては、「ペンギンの生態」と「海鳥の生態」の展示コーナーがあり、イワトビペンギン、フンボルトペンギン、エトピリカ、ニシツノメドリ、ウミガラスが観察できます。プールにはガラスの壁が設置されているので、水中を泳ぐ彼らの姿が本当によく分かります。短い時間しかありませんでしたが、ここは何回訪れてもよいくらい、見るものには事欠かないすばらしい施設であると感じました。詳しくは、後にまとめることにします。

・午後0:00、昼食。水族園を出た所の芝生(お弁当広場)でお弁当にしました。水族園内にはレストランもあるのですが、たくさん利用客がいるので、時間節約のためにお弁当にしました。

不断なかなか観察する機会の少ない海鳥の生態や愛鳥教育について、楽しく語らいながらの楽しい食事になりました。

・午後0:45、人工なぎさの「葛西海浜公園」に移動し、干潟に憩う鳥たちの観察をしました。観察できたのは主にカモ類やカモメ類です。当日、観察できた種類は17種類で、次の通りです。

トビ、モズ、ハクセキレイ、カワウ、ユリカモメ、セグロカモメ、オナガガモ、マガモ、カルガモ、スズガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、アオサギ、ダイサギ、ハシブトガラス、スズメ

「葛西海浜公園」は、人工なぎさである「東なぎさ」と「西なぎさ」とで構成されています。「葛西臨海公園」からは「かさいなぎさ橋」で「西なぎさ」に接続されています。広い砂浜では、座ってのんびり憩う人々や、凧上げなどを楽しむ人々の姿が見られました。

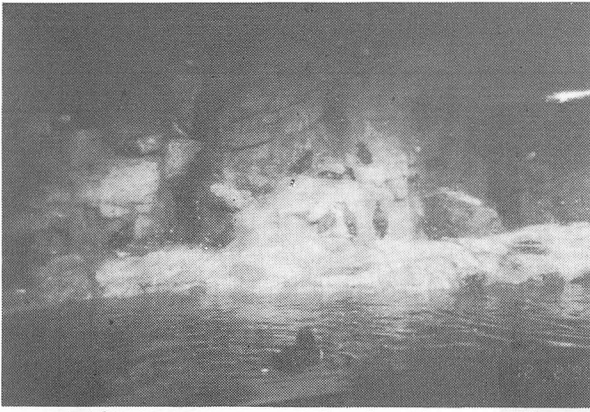
現在、「東なぎさ」は立入禁止となっていますが、カモやカモメたちは人を避けて、ほとんどがこちらに集まっていました。鳥たちにとっても休息できるよい場所になっているようです。

人間と野生生物が共存していくには、野生生物が安心して過ごせる環境を確保することが必要です。人間が海を埋立てたことで失われた海岸や干潟を、人工のものであっても補償していくことは、同じ生物としての人間が本来そこに住んでいた野生生物に対してすべき最低限の務めではないかと思います。

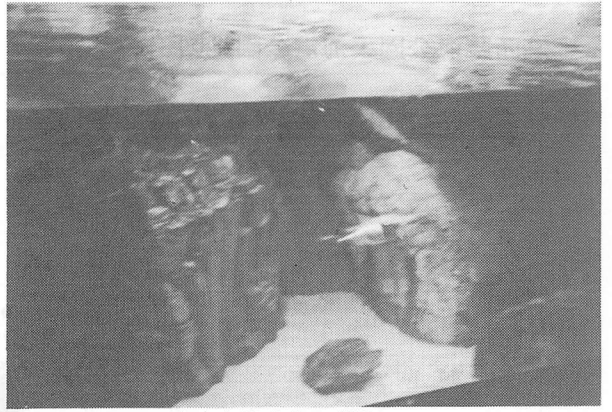
・午後2:00、水上バスにて日ノ出棧橋へ向かいました。この時点で、一応、野外研修会は終了し、解散しました。しかし、結局は、参加者全員が、水上バスに乗りましたので、実質的には研修会は続行されることになりました。

船は、埋立地の間の水路を進んでいきますが、道路やビル等の建築物や各種の施設が続々と建設されている様子が見られました。

・午後2:45、日ノ出棧橋に到着。J R浜松町駅までは、徒歩10分です。ここで、最終解散となりました。



エトピリカ、ニシツノメドリ、ウミガラスの水槽



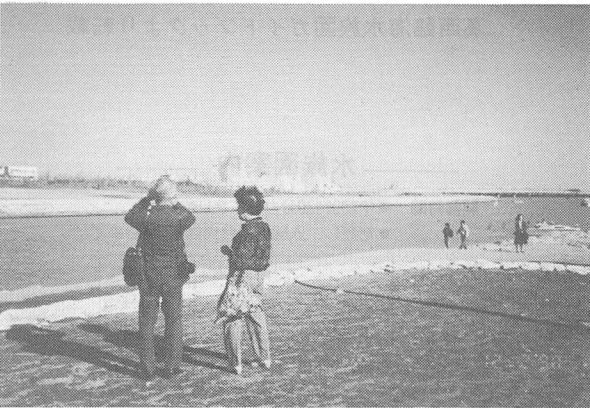
水中を泳ぐウミガラス



巨大水槽を泳ぐマグロの群



参加者一同で記念撮影



「西なぎさ」より水族園を望む

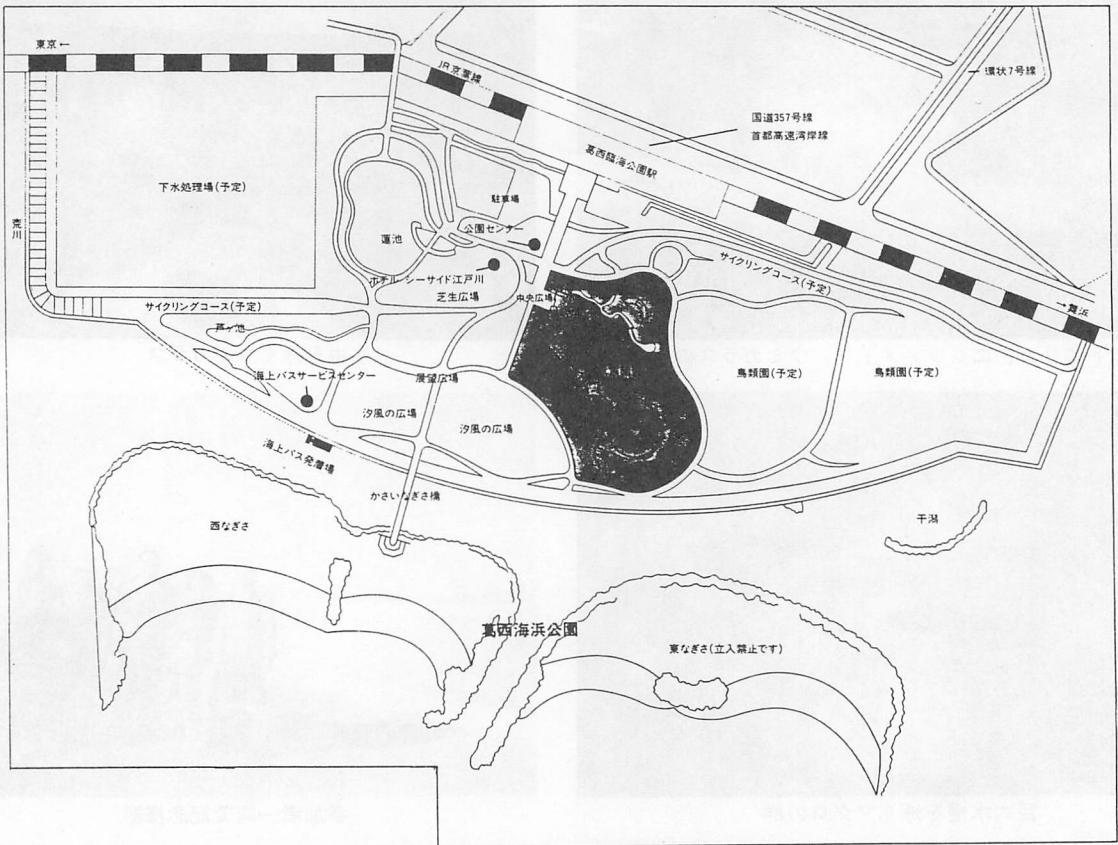


「かさいなぎさ橋」より水上バス発着所を望む



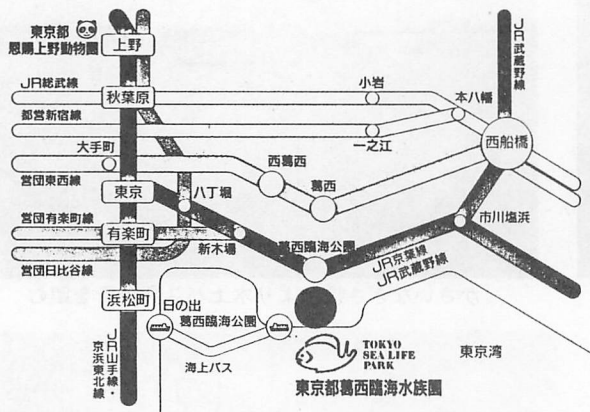
水族園内の「水の流れ」遊歩道

葛西臨海公園・海浜公園地図



葛西臨海水族園ガイドブックより転載

交通案内



JR京葉線「葛西臨海公園」駅下車徒歩5分
 (日曜、祝日は武蔵野線も停車します。)
 地下鉄東西線「葛西」駅下車、バス(葛西臨海公園駅行)
 地下鉄東西線「西葛西」駅下車、バス(葛西臨海公園駅行)
 二階建バス発着駅: JR総武線「小岩」駅・都営新宿線「一之江」駅
 問い合わせ先: 東京都交通局都営バス営業所 ☎(03)3877-8681
 水上バス: 日の出桟橋(JR浜松町駅)~葛西臨海公園
 スポーツランド~今井交通公園~なぎさ公園~葛西臨海公園
 問い合わせ先: 東京都観光汽船株式会社 ☎(03)3457-7830

水族園案内

開園時間 ●午前9時30分から午後5時まで
 ●ただし、入園券の発売は午後4時まで

入園料

	個人	団体
大人	600円	480円
中学生	200円	160円

(注) 団体は50人以上
 小学生以下および65才以上は無料

休園日 ●毎週月曜日
 ただし、祝(休)日にあたるときは、
 翌日が休園日になります。
 ●年末年始(12月29日から1月3日)

※館内への乳牛車、ベビーバギーの持ち込みは、お断りします。
 ※館内での呼び出し放送は行いません。
 入館前に、集合時間・場所等の確認を必ず行って下さい。
 ※館内でのストロボ、ライト等の使用はお断りします。

葛西臨海水族園案内パンフレットより転載

平成2年度全国愛鳥教育研究会室内研修会の御案内

この度、全国愛鳥教育研究会では、平成2年度の事業の一環として、財団法人日本鳥類保護連盟と共催による「室内研修会」を、下記のように実施いたします。

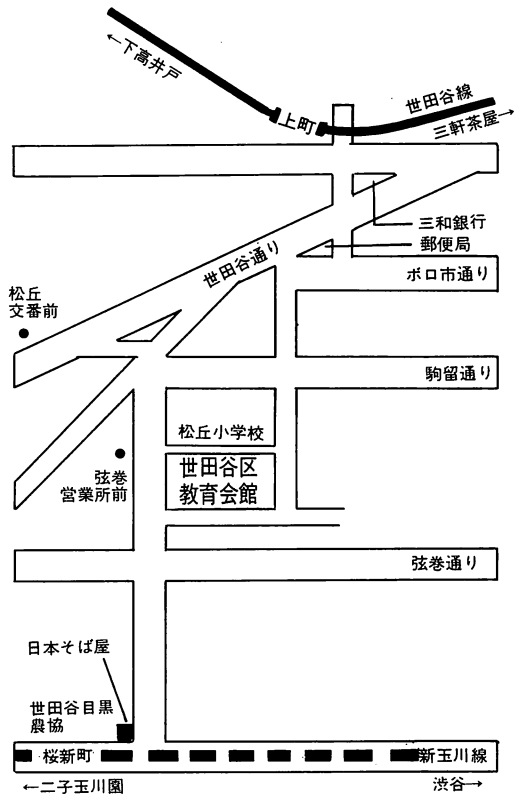
今回は、学校と地方自治体、学校と教育委員会、学校と地域団体等が、どのように連携し、愛鳥教育を推進しているかについて、現在活躍中の関係各位に発表をお願いしています。質疑応答の時間も確保し、愛鳥教育の現状と今後の在り方についても、いろいろ意見や情報の交換ができるように企画しました。

愛鳥モデル校の先生方、現在、愛鳥教育に携わっている方、これから愛鳥教育を始めようとしている方、愛鳥教育に興味と関心がおありの方は、ぜひお出かけ下さい。

記

1. 月 日 平成3年1月27日(日)
2. 時 間 午前10:00～午後3:00
受付開始 午前9:30
3. 場 所 東京都世田谷区教育会館内
教育センター
〒154東京都世田谷区弦巻3-16-8
電話 03-3429-0811
4. 講師
 - ・東京都世田谷区環境部みどりの課
中田裕敬氏
 - ・東京都世田谷区立松丘小学校
長屋昌治先生
 - ・神奈川県秦野市教育委員会指導室
指導主事 小林徳博氏
 - ・神奈川県秦野市立北小学校
江原広美先生
 - ・財団法人埼玉県野鳥の会
指導部長 岩木晃三氏
 - ・埼玉県越谷市立鷺後小学校
沢田昌江先生

世田谷区教育会館案内図



交通機関：

バス「弦巻営業所」下車徒歩1分
バス「松丘交番前」下車徒歩5分
世田谷線上町駅下車徒歩10分
新玉川線桜新町駅下車徒歩10分

※駐車場がございませんので車でのご来館はご遠慮下さい。

〒154 世田谷区弦巻3-16-8
教育センター 3429-0811

むらの理科ことはじめ(8)

宇宙人はいるか

全国愛鳥教育研究会副会長 金井 郁夫

体育の後は始業の

体育の後は、始業のチャイムが鳴り、あいさつが終わってもにぎやかである。そこで、チョークをとり、黒板に大きく宇宙と書く。そして、しばらくは様子をうかがっている。生徒たちがノートへ写し始めた頃を見計らって、その下へ、(1)何か書けとする。とたんにおしゃべりの数馬が、「先生、何かってどんなことだ。」と問いたです。「宇宙に関係のあることなら何でもいいんだ。書かねえより書いた方が頭の体操にもなるしなあ。」とする。そして、「待つ時間は3分。」と言ってから、机の間をまわって書きっぷりをのぞく。たちまち10項目も書きつらねるのは相良。三つくらいで考え込んでいる西村。まったく書く気の無さそうなのは福崎である。

「おーい。締め切り時間になったから、書くのを止めて顔上げな。それでは皆さんの汗の結晶を発表していただきます。」としてから、「誰から始めるかな。」には、福崎が、「そりゃあ加住の天文学者佐々木からだよな。」とくる。「じゃあ御指名通り、佐々木からゆか。言ってみな。但し、一つだけだぞ。」にはちょっと不服そうだったが、「島宇宙からできている。」と答える。小池が、「難しいこと言うな。俺とは違う世界の人みてえだな。」とまぜかえす。「難しいことは佐々木にまかせるとして、もう少し気楽にゆこうよ。」として方向転換。「よし、何でもいから勝手に言ってみな。」と言う。たちまち、「大きい」「広い」「無限」。「宇宙船」には、「おっ。今はやってるやつだな。まだあるだろう。」「月」「太陽」「火星」「星」。「だいが苦しくなってきたようだな。もう一息頼むぞ。」で「ブラックホール」「宇宙人」と続く。そこで、「やっと出たな。」と言いながら、(2)宇宙人と書く。生徒たちがこの4文字を書き終わる頃を見計らって、「宇宙人はいるかね。」と質問する。「いる。」「いる。」「いるに決まってんじゃねえか。」などの声が圧倒的である。そこで、改めて、「宇宙人はいると思う者手をあげてみな。」には、「ウ

オーツ。」という喚声と共に大多数が手をあげる。「そうか。みんないると思ってるらしいな。じゃあこうするか。」と、前の(2)宇宙人にの絵をかけ。と書き足す。とたんに、またひとさわぎ。「そんなものかけねえ。」「だから俺はいねえと考えてたんだ。」などの発言が続く。静まるのを待って、「誰も見てねえらしいな。それでもいいから、もしいるんならこんなもんだらうと想像してでっちあげな。」と結ぶ。そのうち誰ともなく、ぼつぼつと書き始める。やがて皆書くのを楽しみでる表情で真剣に取り組む。字と違い、絵はちらっとのぞいただけでも全体がわかるから、見てまわるのも楽しい。個性豊かな名作が続々とできあがる。

「いやあ、御苦労さん。ほぼ皆かきあげたようだな。ノート1ページを全部使って怪物をかけた福崎のようなのもいれば、縦横それぞれ3cm以内にこじんまりとまとめた弓子のようなものもあり、なかなか名作ぞろいだぞ。」「先生。」と呼びかけたのは小池。「何だ。」には、「誰のが一番うまかった。」には、たじたじ。「絵の評価は、美術の担当。理科の絵は、宇宙人だと思えばいいんだ。」には、「うまく逃げたな。」と見破る。

「それはそうとして、皆の絵をおおざっぱに分けると、恐竜スタイルと仮面ライダー型、それに自分勝手な独創タイプになるが、驚いたことには、今から50年も昔によくかかれた頭でっかちな火星人型がいるんだな。」すかさず、「どんななんだ。」とくる。そこで、頭と足だけのタコに近い絵をかいみせる。「へんなの。」「頭と足だけではわたしはねえのかよ。」には、「うん、なかなかいい質問をしたな。その由来を話すとしよう。昭和の初め、ヨーロッパのウェルズという人が、望遠鏡で火星を見て、すじに気が付いたんだ。自然界に直線は無いから、あれは火星の作った運河と思った。そして、火星では空気が少ないから、胴があっては支えられない。そこで必要な脳と内臓を一つにまとめた‘人’を考えたんだな。」で、(3)宇宙のしくみへと続く。

編集後記

- 街は、年の瀬の賑わいを見せていますが、暖冬のせいか実感もあまりなく、けれど現実としては、冬期室内研修会などに向けて慌ただしいこの頃です。

事務局の前のビルの屋上にちょうどよい水たまりができています。そこへハシブトガラスやヒヨドリ、ハクセキレイ、スズメなどがやってきます。ハシブトガラスが2羽いっしょに水浴びをしたりする光景は、なかなかかわいいものです。

会員の皆様の御意見、身のまわりの小さなできごとなどの原稿をお待ちしています。(岡本)

- 野外研修会では、いろいろなフィールドに出かけてみたいものと思います。そして、その報告も簡単なフィールドガイドとしての性格を持たせられたらと考えておりますが、今回のまとめは自分でも十分ではないと感じております。会員の皆様の御意見をお待ち申し上げます。

なお、現在の所、出かけるフィールドは東京近郊になっておりますが、全国各地のそれぞれにより場所を知りたいものです。研修会は、その事情に合わせて企画・実施すればよいわけですので、この点でも会員の皆様の御意見を伺いたいと思っております。よいフィールドを御紹介下さい。また、愛鳥教育に関する情報などをお寄せ下さい。(杉田)

愛鳥教育 No.35 平成2年12月28日

発行人 江袋島吉
発行所 全国愛鳥教育研究会
住所 〒150 東京都渋谷区宇田川町37-10
麻仁ビル渋谷503
(財)日本鳥類保護連盟内
電話 03-3465-8601
(平成3年1月1日より)
郵便振替 東京8-12442
印刷所 祐文社